

# 日本史研究推進委員会

「神奈川の地域史研究とその教材化—歴史総合・日本史探究をどう教えるか—」

神奈川総合産業高校 高橋 俊介

いよいよ大学入学共通テストでも新学習指導要領に対応した出題科目となりました。日本史研究推進委員会では、2024 年度も引き続き神奈川の地域史研究の教材化を踏まえて「歴史総合・日本史探究をどう教えるか」というテーマで活動しました。世界史推進委員会との合同例会では「探究」科目の共同研究を、神奈川県立歴史博物館の学芸員との合同例会では博学共同として博物館資料の教材化で共同研究を進めました。そして、8月には恒例行事となる日本史サマーセミナーを開催しました。この場をお借りして研修の会場を提供していただいた各学校や博物館の皆様には改めて厚く御礼申し上げます。

1 月例会 月／会場（内容） ●は世界史研究推進委員会との合同、▲は神奈川県立歴史博物館との合同

4月／藤沢清流（年間予定策定）、5月／▲県立歴史博物館（特別展「近代輸出漆器のダイナミズム」見学、学芸員の館蔵資料紹介）、6月／●相模原中等教育（「日本史探究」の構造と教科書・授業実践）、7月／横浜緑園（歴史総合から探究科目へ、日本近代史特講という名の郷土史「つくい」）、9月／▲県立歴史博物館（特別展「仮面絢爛」見学、博学連携実践）、10月／鎌倉学園（「新歴史科目」と大学入試について）、11月／▲県立歴史博物館（特別展「かながわへのまなざし」見学、定時制高校における歴史総合、歴史総合の授業における資料活用）、12月／●鎌倉（「平安時代の対外関係」の試み）、1月／大磯（吉田茂をテーマとした地域学習・博学連携の実践報告、2年目の「歴史総合」）、2月／神奈川総合産業（高校野球を教材とした大衆文化の授業）で実施しました。

2 日本史サマーセミナー

8月 21～22 日の2日間、横浜翠嵐高校を会場に「「歴史総合」から「日本史探究」へ PartⅢ」というテーマで実施しました（詳細は別稿参照）。午前は高校生を対象に大学教員が講義を、午後は教員を対象として大学教員と高校教員が報告をしました。講師には成田龍一氏（日本女子大学）、遠藤ゆり子氏（淑徳大学）、伊藤和彦氏（名古屋市立名東高校）、三村昌司氏（早稲田大学）、大串潤児氏（国立歴史民俗博物館）をお迎えしました。県内の若手教員や県外からも多くの参加者があり、大変充実した研修になりました。

3 その他

夏季巡検は津久井方面で実施しました。津久井湖城山公園の野口園長の案内で津久井城址の山頂まで登り、その後は津久井高校（収蔵品見学）や甲州道中の小原宿本陣などに行きました（詳細は別稿参照）。冬季巡検は川崎方面で実施し、二ヶ領用水の散策、大山街道ふるさと館、国史跡橘樹官衙遺跡群、影向寺遺跡、川崎市平和館を回りました。

最後になりますが、私たちは中堅教員を中心に新採用や再任用教員まで歴史学の最新研究を踏まえた教材研究を進めています。その成果を県内の先生方に紹介するとともに、多くの高校生に向けて還元することを目指しています。ここ最近では、日本史サマーセミナーをきっかけに一緒に活動する若手教員が増えてきました。私たちと教科指導について深めたいという方は、高橋か副委員長の桐生（足柄高校）までお気軽にご連絡ください。